

第4回 ケアマネとリハ職の情報共有の練習会

令和4年7月26日（火）19時～20時30分 姫路市総合福祉会館



感染予防対策として、会場は換気対策をさらに
行い、グループワークは1グループ基本4名
とし、フェイスシールド着用で行いました。

リハ職が書いた情報提供書（リハビリテーション計画書）の内容をケ
アマネジャーとリハビリ職と一緒に読み取ることで、

《ケアマネ》生活機能の今後の可能性（将来予測）や、生活上の
注意をどうやって確認するか

《リハ職》 どんな情報をどのように伝えたとケアマネが理解し
やすいのか

について考え、深めていくことを目的とした練習会になります。

第4回は、ケアマネジャー14名、リハビリ職22名、他専門職8名
の方々にご参加いただきました。

今回は、言語聴覚士会より事例（リハビリテーション計画書）を
提供していただき、10グループに分かれて話し合いを行いました。
ちょっとした疑問や意見交換など、日常の業務では、聞きに
くかったことが、少人数のグループだとお互いに聞きやすく話し
やすい環境になりました。各グループとも、和やかな雰囲気の中
か、笑顔を交えながら活発な意見交換が行われていました。



ケアマネジャーさんとリハ職さんが一緒に計画書に記載された
情報について直接確認し合い、意見交換をする中で、

- ・《ケアマネ》「入院時情報（生活情報も含めて）」を具体的に
情報提供する
→ 《リハ職》計画書の具体的な方針・目標設定に反映できる
- ・《リハ職》病状やADL・IADLの状態などを、特記事項欄を
活用してより詳しくわかりやすくリハ計画書に記載する
→ 《ケアマネ》イメージ化でき、ケアプランに反映できる

《参加者アンケート 回答（一部抜粋）》

- ・書類だけでは伝わりきらないことがあるため、可能な限りコミュニケーションをとっていききたい（リハ職）
- ・個別性と具体性を意識していくことが大切だと知り、とても勉強になった（リハ職）
- ・ケアマネさんからいただいた生活背景の情報をもとにリハ計画を立案し、本人の生活に合ったリハビリが行えるようにしたい（リハ職）
- ・初めて参加させていただき、ケアマネさんとの連携を深めるきっかけになって、良かった（リハ職）
- ・（2回以上参加者）この研修会により、リハビリの目的を（他職種に）伝わりやすく表現するように意識するようになった（リハ職）
- ・リハ職とケアマネの視点の違いがあるので、意見・情報交換をすることでより目標が具体化することを学んだ（ケアマネ）
- ・練習会を通じて、参加者（リハ職の方）の意見や考えが聞け、顔の見える関係になるのは良いと思う（ケアマネ）
- ・（2回以上参加者）この研修会により、リハビリ計画書を見る時の意識が違ってきたし、確認するポイントがわかってきた（ケアマネ）
- ・情報提供書に本人の生活状況を意識して記載することで、より具体的なリハ計画が作成できることが認識できた（社会福祉士）

次回の「ケアマネとリハ職の情報共有の練習会」は11/7開催予定です。

今後の研修会情報につきましては、センターのホームページでもご確認いただけます

